

テレビドラマ

Drama

演技賞

体が証明した確かな演技

瑛太 河合 祥一郎

『最高の離婚』（フジテレビ）は、30代の未熟な結婚観を通して、「夫婦とは何か」「家族とは何か」を軽快に描いた作品。

ダブル主演の瑛太さんと尾野真千子さん夫婦の洒落で完成度の高い演技、リアリティ溢れる脚本と演出すべてが高く評価され、番組にドラマ番組賞、そして主演のお二人に演技賞が贈られた。

テレビドラマ番組の河合祥一郎審査委員長が、瑛太さんの演技の魅力を探った。

瑛太 さん

1982年生まれ。俳優。2001年『さよなら、小津先生』（フジテレビ）でドラマデビュー。2003年『WATER BOYS』（フジテレビ）で注目を浴びる。2013年1月～3月には、『最高の離婚』を含め、主演ドラマが3本も放送されるなど数々の作品で活躍。映画『ディア・ドクター』で日本アカデミー賞 優秀助演男優賞、日本放送映画芸術大賞 映画部門 優秀助演男優賞を受賞。舞台では、2013年10月からNODA・MAP『MIWA』に出演予定。



濱崎光生というキャラクター作り

河合 ドラマ『最高の離婚』での演技賞受賞おめでとうございます。

瑛太 有難うございます。

河合 授賞式のスピーチのなかで、整体師に診てもらったら「骨盤と背骨が歪んでいるけれど、何をやっているんですか？」と聞かれて「光生をやっています」と答えたというエピソードを紹介してくださいましたが、どうして背骨が歪ん

でしまうようなことになってしまったのか、その辺の撮影の苦労話をお聞かせ頂けますか？

瑛太 まず、撮影に入る前に光生をどんなキャラクターに作りあげるのか、監督を交えていろいろ話したんです。光生は、歯医者で独り言のように結婚への不満を毒づいたり、過剰に神経質で、どこか生きづらさを感じる人間なので、手とか体のどこか一部分が、常にものすごく力が入っている“ある種の緊張状態”でいるのはどうか、



河合 祥一郎 さん (かわい しょういちろう)

テレビドラマ番組審査委員長

東京大学大学院教授。専門はイギリス演劇、英文学、表象文化論。著書に「ハムレットは太っていた！」(白水社、サントリー学芸賞受賞)など。

というアイデアが出てきました。

河合 なるほど。ドラマの中でも歩き方とか見ただけで、光生だとわかりますからね。シェークスピアの悲劇『リチャード三世』にも似たような逸話があつて、主役のリチャード三世は背中が曲がっていて足を引きずるものだから、やっぱり名優が真剣に演じると、そのあと体が歪んでしまうそうです。下手な役者が演じてても歪まないのに……。だから、瑛太さんの演技が名演技だったということを、体が証明したことになりますね。

ドラマで味わったはじめての感覚

河合 体のどこかに負荷をかけるという苦勞のほかにも、なにより、あの膨大なセリフ量に驚かされますね。しかも早口で… 大変な役ですね。

瑛太 セリフは、ほんとに辛かったですね。何度も反復して脳みそや喉などあらゆる感覚にセリフを叩き込みました。セリフを嚙んだり、呂律が回らず、NGを出してしまうと、逆に“今の光生っばいね”とOKを出されてしまうことがあつて、それがとてもイヤだったんです。伝えたいことが、ちゃんと伝わらなくてはいけませんから。

今回、セリフを覚えて、それを吐き出すとい

う過程で、右脳と左脳の使い方が今までとは変わったなと感じた瞬間があつたんです。

河合 それはということですか？

瑛太 たとえ、とても長いセリフだとしても、光生の今の感情はこれだな、と決まって「本番！ よーいスタート」と声が掛かると、台本に書いてあるセリフとしてではなく、口が勝手に動いてセリフが出てくるみたいな……。

河合 それはすごいですね。

瑛太 舞台に出ているような感覚といえいいのか、そういう感覚をなんとか味わうことができたんです。

河合 そうした新しい演技モードに達したというところが、今回の演技賞受賞につながったのでしょうか。

これまで、瑛太さんは『まほろ駅前番外地』の多田啓介役や『のだめカンタービレ』の峰龍太郎役など、ごく自然体で演技されてきた感じがするんですが、『最高の離婚』では、「えっ？これが瑛太さん？」という驚きがありました。すごく役を作りこんでいるのがわかりました。

瑛太 多田啓介を演じる時には、できるだけ“なにもしない”ということを中心に心がけていましたので、光生とは逆ですね。

光生は良い旦那さん！？

河合 光生は神経質で自己中心的な部分がデフォルメされたキャラクターですから、“変な人”ではあるんですが、妻の結夏が散らかした部屋をきれいにしたり、丁寧に料理を作ったり、ある意味家庭をすごく大切にしている。そう考えると、良い家庭人であり、良い旦那さんと言えないわけではない。瑛太さんは光生をどんなふうにとらえて演じていらしたのでしょうか？

瑛太 僕も料理しますし、カレーを食べたいと思ったときは、きっちり作ったりもしますので、何事も完璧にやりたい、突き詰めたいという光生には、共感できますね。光生は、結夏と喧嘩をしているときも、ちゃんとコミュニケーションをとるんです。そして、相手に対して光生が言っていることには、嘘がない。光生なりの辞書の中で、言葉の選択が瞬時に出来て回転数を

あげてしゃべれる。あのウンチクと情報量を持っている光生は作家になれるな、なんてそんなことを思ったりしていました。撮影している間、この光生という人は何を考えて、何を理想としているんだろうとか、こんな言葉をいつ考えているんだろうかなどと思い巡らせていました。回を追うごとに、光生の気持ちが複雑になって、迷路にはまったように、どこに行き着くか分からず辛かったです。光生は結夏のことを好きなんだということはわかりますが、本音の部分はセリフとしては、最後まで出て来ませんでした。でもその辺が面白いなあとも思います。

河合 光生は、流されるタイプで、先が見えないで生きていくところがありますから、いわば光生になりきって撮影されていたということになりますね。

『最高の離婚』の続編をやりましょう、という話が出たらどうしますか？もうコリゴリですか？



ドラマ『最高の離婚』より

瑛太 この番組は、わりとたくさんの人から「面白かったよ」、「毎週楽しみにしてます」という声を頂いたんです。観ていただいた方からのそんな声や作品の良さは、体に負荷がかかってくるのだったり、辛かったり苦しかったりすることをはるかに上回るんです。続編があるなら、光生という人をもう一度楽しみたいです。でも2、3日、何か鬱屈した状態で生活しなくては、光生に入り込めないかもしれません。

舞台での演技

河合 舞台のお話もお伺いしたいと思います。私は、これまでの瑛太さんの舞台は全部拝見しているのですが（2009年シスカンパニー公演、いのうえひでのり演出『怪談 牡丹燈籠』、同年Bunkamura公演、ケラリーノ・サンドロヴィッチ演出『東京月光魔曲』、2012年シスカンパニー公演、長塚圭史演出『ガラスの動物園』）、テレビや映画と比べて、演技のあり方が違うと思いますが、いかがでしょうか。



瑛太 そうですね。自分がこういう風に伝えたいと意識して演じることと、お客さんが受け取るイメージの違いには戸惑いました。

『ガラスの動物園』では、冒頭で舞台に一人立って、これから始まる物語の説明をするストーリーテラーをやった時、“どっしりと、重心が下に落ちていくようなイメージで…”と意識して演じました。また、シアターコクーン2の2階席の奥の観客まで、僕が演じるトムという人間が何を感じているかを伝えるために、大きく表現しなくてはいけないと意識もしていたのですが、見終わって楽屋をたずねてくれた役者仲間に、「あんなに普通に立っていていいの？」とか「すごい細かい芝居してたね」と言われてしまっていて…。そっか、そう見えているのかって落ち込みましたね。

河合 『ガラスの動物園』は長塚圭史さんの演出ですよね。長塚さんはご自身も役者だから、役者の身体性を尊重するタイプの演出家さんではないかと思いますが、いかがでしたか？

瑛太 とても柔軟性のある方だなと思いました。「まずやってみて」といわれて、その後、大きく修



正されたりすることはなかったですね。直接的な言葉ではなく、「こう動いてみたらどう？」と実際にやって見せてくれたりしました。舞台とはいえ、指一本の使い方で、表現や意味合いがこんなにも変わるといふ面白さをたくさん気づかせていただきましたね。芝居は、距離感や舞台の上で自分がどこにいるかなど、もう一人の自分を確実に作っていかないと舞台に立ってられない、自分自身を演出していく力が必要だということも学びました。

河合 10月からは野田秀樹さんの舞台『MIWA』にご出演が決まっています。野田さんとは今回が初めてですか。

瑛太 野田さんのワークショップに参加したことがあります。稽古を通して、絶対的に、大きな何かを野田さんからもらえるという気がしてますね。楽しくなりそうです。

演技することをもっと楽しみたい

河合 最後に俳優としての将来への抱負がありましたら、聞かせてください。

瑛太 俳優の面白さにもっと気づいていきたいです。こういう役を演りたいと具体的には言えませんが、自分自身のことと、芝居をすることを切り離して、冷静になっていけばいくほど楽しくなっていくのではないかと期待しています。僕は、去年30歳になりましたが、20代は、私生活と演じている時の自分、そして過去とか未来とか、その整理がつかず、流されて生活していたような気がしています。これからは、ブレない部分を持ちたいです。

河合 ブレていらしたようには見えませんが、でも、今回、光生という役を客観視して冷静に演じきれたことが、ひとつ大きな何かを乗り越えたという自信となったのではないのでしょうか。

瑛太 これまでは、自信なんていうものは持つてはいけなし、自分自身を疑ってかからないと足元を掬われてしまうと思っていたんです。でも、何か一つ殻を破った時に、やっぱり見えるものがあるし、得られることもある。その結果、仕事に対しての面白みを感じることができる。自分なりに前進しているんだと、言い聞かせてもいいんじゃないか、と今は思っています。でもそれだけが答えじゃないぞ、という疑いも持っています。

河合 うーん、匠のことばですね。今後の瑛太さんを楽しみにしています。今日は、貴重なお話を有難うございました。

『最高の離婚』

濱崎光生と結夏（瑛太、尾野真千子）の夫婦は、お互いの性格、行動を理解できず、常に喧嘩の毎日…ただ、なんとなく別れるまでには至らなかった。それが、ある日ある出来事を境に「離婚届出してきた」と告げられる夫。そんな元夫婦で今は他人の二人。なのに、なぜか二人はひとつ屋根の下に暮らすハメに…。一方、幸せそうに見えるもう一組の夫婦（真木よう子、綾野剛）には、隠された衝撃の事実が発覚する…。

何が結婚で、何が離婚なのか、なんともややこしい迷える二組の男女が、結婚と離婚の狭間で成長していくラブ&ホームコメディ。